

海神会だより

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1 神戸大学深江キャンパス内 海神会事務局

ホームページ<http://www.fukae.org/>のご案内:最新の情報が随時追加されています。ぜひご覧ください。

暗愁を抜けバラ色の未来へ

海神会 会長
西原 興一郎 10/E

平成21年5月に神戸商船大1期生で元学長の井上篤次郎先生から海神会の会長を引き継ぎ2年半になりました。

私たちの母校も様々な課題をこなしながら次の世代の発展に向かって歩んできました。

ただ私たちの周辺は、現在での足元はともかく中々明るい明日を感じ難い時です。

もう殆ど消え去り今の国語辞典には記載されておきませんが、50年前の辞典には、

記載があった言葉の一つに、暗愁という言葉があります。

梶井基次郎の小説『檸檬』(レモン)のキーワードの一つでした。

又、久保田万太郎の太平洋戦争終戦直後の日記に、空が晴れ明るく美しい景色があるが、これからの日本の行方や明日の生活のことを考えると不安が一杯になり、心から喜べない気持ちを暗愁という言葉で表現しております。

今の私たちの周囲には為替、年金、健保、税金、TPP、労働、環境、CO₂、震災、電力、原子力、タイの水害、EU 発の金融等々様々な問題が山積みしています。

国連は2011年5月に'11年10月末には世界人口が70億人に達すると発表しました。

地球が許容できる人口は、70億とも100億とも言われています。

生命と共に在る地球に今生じていることを整理して、人が今後もし息できるように考える時です。

人は、より良い生活を求めて色々なことに工夫を凝らし道具を進歩させてきました。

一方で、たとえば漢字が書けなくなったり暗算が苦手になってしまったり、歩かなくなったり見えなくなったものも多いと思われます。

結果として、人間力を鍛える機会すら少なくなっていました。

様々な現象に距離を置いて立体的に見て全体を把握する力が

弱くなってしまいました。

人や物、事柄、そして政治までもが一部のマスコミに膠着してしまい、一極に集中し全体を見失う適応異常を来している様に思います。

地球規模で人類が直面している危機に対し科学と技術に頼らざるを得ない現状をしっかりと考えないといけません。

何事にも『反』という字を頭につけて逃げてしまわずに、その対応のカギを持つ科学や技術に対する知見を深めないとならない筈です。

たとえば米国中心に実用化された遺伝子組み換えのトウモロコシや大豆は大きく生産性を拡大し、同時に殺虫剤の投与量の劇的な減少に貢献しています。

又、私共に身近な原子力はどうか

日本は鉄鋼、電子部品、自動車等の工業製品を輸出し、得たお金で食料、エネルギー、原料を輸入して生きている国です。

そして重量ベースでその99%は海上輸送になっております

私たちの海事科学部は海についての様々な幅広い問題を自然科学から社会科学まで連携して科学的な研究をするとてもユニークな学部です

又、船という他に頼ることが殆どできない自己完結型の仕組みを使いこなす技術と能力と目的をやり遂げんと勤める精神力を合わせ鍛えた建学のベースがあります。

今求められている色々な 仮定、想定、予測を有機的に多面から見て全体を理解するに最も有効な学部だと思います。

私共の海事科学部で学んだ科学、技術、考え方といったものを統合しこの暗愁をつき抜けてバラ色の未来へ挑戦する気概を忘れてはならないと考えています。

ご案内と予告 平成24年度海神会理事会・総会・懇親会の日時、場所が決まりました。

日 時：平成24年5月26日(土)

理事会会場：学術交流棟梅木Nホール、14:00～15:00

総 会 場：学術交流棟梅木Yホール、15:00～16:30

議 題：平成23年度収支決算、平成24年度予算、活動報告など

懇 親 会：学術交流棟梅木ホール、16:30～18:00

尚、当日は深江祭と同時開催です。

平成24年の第7回神戸大学ホームカミングデイは10月27日(土)です。

海神会評議会も左記と同会場にて

当日13:00～14:00を予定しております。

どうぞ参加してください。お待ちしております。

参加申込先

同窓会総会及び懇親会に出席される方はFAX又はメールにて5月10日までにご連絡いただきますようお願い致します。

TEL/FAX : 078(431)6439 E-MAIL: almamata@maritime.kobe-u.ac.jp

同窓会の活動



平成23年度 第8回総会式次第

開催日時:平成23年5月21日(土)15:00~16:30
開催場所:総合学術棟 1F 梅木Yホール

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議長選任
4. 議事録署名人の選出
5. 議 案

第1号議案:平成22年度事業報告、収支決算及び
監査報告について

第2号議案:平成23年度事業計画及び収支予算案
について

第3号議案:役員(理事、会長)の改選について

6. 新会長挨拶
7. 小田啓二海事科学研究科長より海事科学部の現状に
ついて
8. 各支部の活動報告
9. 事務局報告
10. 閉 会

平成22年度 海神会 収支決算書

(単位:円 平成22年4月1日から平成23年3月31日迄)

科 目	22年度決算額	22年度予算額	差 異	備 考
I.収入の部				
1.会費収入	5,885,000	7,300,000	△1,415,000	
2.雑収入	20,513	10,000	10,513	
当期収入合計(A)	5,905,513	7,310,000	△1,404,487	

II.支出の部				
1.事業費				
総会経費、会誌発行、送料等	1,405,458	1,600,000	△194,542	
HP維持、クラスと学部支援	1,769,395	1,790,000	△20,605	
関係団体、支部、部活経費等	1,201,985	1,290,000	△88,015	
小計(a)	4,376,838	4,680,000	△303,162	
2.管理費				
人件費、会議費、交通費等	1,476,760	1,650,000	△173,240	
印刷費、通信費、消耗品等	101,392	180,000	△78,608	
事務用品、光熱費、雑費等	382,303	320,000	62,303	
小計(b)	1,960,455	2,150,000	△189,545	
3.予備費(c)	50,000	480,000	△430,000	
当期支出合計(B=a+b+c)	6,387,293	7,310,000		
次期繰越収支差額(C=A-B)	△481,780	479,960		
当期余剰金処分案	平成22年度			
平成21年度前期繰越金	3,398,628			
当期繰越金	△481,780			
次期繰越金	2,916,848			

平成23年度 海神会 収支予算書

(単位:円 平成23年4月1日から平成24年3月31日迄)

科 目	23年度予算額	22年度決算額	差 異	備 考
I.収入の部				
1.会費収入	6,300,000	5,885,000		
2.雑収入	1,000	20,513		
当期収入合計(A)	6,301,000	5,905,513	395,487	

II.支出の部				
1.事業費				
総会、会誌発行、送料等	1,380,000	1,405,458	△25,458	
HP維持、クラス、学部支援等	1,180,000	1,769,395	△589,395	
関係団体、支部支援経費等	1,340,000	1,201,985	138,015	
小計(a)	3,900,000	4,376,838	△476,838	
2.管理費				
人件費、会議費、交通費等	1,605,000	1,476,760	128,240	
印刷費、通信費、消耗品等	130,000	101,392	28,608	
事務用品、光熱費、雑費等	546,000	382,303	163,697	
小計(b)	2,281,000	1,960,455	320,545	
3.予備費(c)	480,000	250,000	230,000	
当期収支合計(a+b+c)	120,000	50,000	70,000	
当期支出予算差額(B=a+b+c)	6,301,000	6,387,293		
次期繰越収支差額(A-B)	0	△481,780		

※収支決算書並びに予算書に於いて疑問点がありましたら事務局までお問い合わせください

平成22年度 海神会 特別会計 収支決算書

(単位:円 平成22年4月1日から平成23年3月31日迄)

科 目	22年度決算額	22年度予算額	差 異	備 考
1.収入の部				
預金利息	129,368	100,000	29,368	
小 計	129,368	100,000	29,368	
前年度繰越収支差額	32,971,425	32,971,425	0	
合計(A)	33,100,793	33,071,425	29,368	
2.支出の部				
学生自治・厚生関係	1,548,940	1,700,000	△151,060	
収支合計(B)	1,548,940	1,700,000	△151,060	
次期繰越収支差額(A-B)	31,551,853	31,371,425	180,428	

特別会計は、「海神会」の基金的性格のものと神戸商船大学学生自治会の処分財産を管理するものである

(注1) ¥28,000,000は基金として置くものである

(注2) ¥4,706,314 は旧神船大学生自治会の処分財産として大学から海神会に移された前期迄の預かり金であり、海事科学部からの要請に基づき、海事科学部学生の自治と厚生関係を目的として支出するものである。次期繰越金は ¥3,157,374です

平成23年度 海神会 特別会計 収支予算書

(単位:円 平成23年4月1日から平成24年3月31日迄)

科 目	23年度予算額	22年度決算額	差 異	備 考
1.収入の部				
預金利息	100,000	129,368	△29,368	
小 計	100,000	129,368	△29,368	
前年度繰越収支差額	31,551,853	31,551,853		
合計(A)	31,651,853	31,681,221	△29,368	
2.支出の部				
学生自治・厚生関係	2,000,000	1,548,940	451,060	1号船塔付2個の時計台を1個作取、1個は針穴封鎖
合計(B)	2,000,000	1,548,940	451,060	
次期繰越収支差額(A-B)	29,651,853	30,132,281	△480,428	

特別会計は、「海神会」の基金的性格のものと神戸商船大学学生自治会の処分財産を管理するものである

(注1) ¥28,000,000は基金として置くものである

(注2) 今年度支出予算額の ¥2,000,000円は旧神船大学生自治会の処分財産として大学から海神会に移された預かり金の内、平成22年度繰越金、3,157,374円から支出されるものである。



第6回神戸大学ホームカミングデイへのご参加 ありがとうございました

神戸大学大学院 海事科学研究科 教授
放射線エネルギー応用科学
広報・社会交流推進委員会

山内 知也



久しく壊れたままになっていた1号館の時計ですが、海神会の皆様のおかげで新しく付け替えることができました。時計はキャンパスの顔です。私などは、しばしばキャンパス内を徘徊していることもあり、正門から時計が眺められれば、それだけで気持ちが落ち着きます。第6回神戸大学ホームカミングデイの学部企画の中で、この寄贈していただいた時計の除幕式を、思うようには動いてくれないその幕とかロープ達と戯れながら、かなり楽しく執り行うこともできました(2011年10月29日)。企画の準備の段階から色々ご協力していただいた皆様、そして記念講演を快諾してくださいました吉岡修三様にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。以下、当日の報告です。

既に3回目となる小田研究科長からの挨拶では、大学の現状と学部の改組計画の進捗状況について、かなり具体的に呈示していただきました。アンケートにもありましたが、「大型医療・災害救助船」を神戸港に導入し、通常時にはそれを大学の「練習船」として活用するというアイデアは、実現できると本当に素晴らしいと思います。

今年度の新しい試みとして、在学生の研究発表を行いました。講師は海事科学部4回生の尾田恵梨奈さんで、タイトルは「次世代燃料は船舶排ガスの環境負荷を低減できるか?」でした。化石燃料に代わるものとしてバイオ燃料に注目が集まっていますが、意外にも排ガスの化学分析については十分に実施されていませんでした。彼女が見いだしている窒素酸化物は、バイオ燃料それ自体が抱えている問題点として研究・調査が必要であることを示しており、環境保全が一筋縄では行かないことを教えます。彼女自身は船会社に就職するとのことですが、環境化学についても素養をもった人材は海事科学部以外からは、なかなか輩出できないでしょう。

記念講演としては、株式会社名村造船所の代表取締役副社長を務めておられる吉岡修三氏による講演「本学海事科学研究科・海事科学部に求める学生像・人材像について」が行われました。同氏は1973年に神戸商船大学を卒業された、機関学科の18期生です。同年10月に名村造船所に入社され、2005年から執行役員に就かれています。

ご講演の内容は、「副社長」、「船舶海洋事業部長」、あるいは「伊万里事業所長」ならではと言えるものであり、種々の統計を縦横に活用したものでした。まず名村造船所の会社としての紹介が行われましたが、グループ全体としての活動と現在の力点がうかがえました。収益状況の報告を聞いていますと、この10年間の日本経済の動きを振り返るものに結果としてなっていました。お願いした講演タイトルに正面から応えて頂き、企業が求めている人材について、一般論からはじめて、次いで名村造船所が求める具体像にまで分け入って明確に示して頂けたと思います。示されたのは、「自己管理能力」と「知的能力」、そして「チームワークに必要な能力」でした。造船所で働くプロフェッショナルとして必要な「自己管理能力」とは健康とともに自身の就業意欲を必要なレベルに持って言うように自律することであり、「知的能力」とは基礎的な知識の学習とその実証的体験に基づいた本質的な理解を指し、年間十数隻の船を協力して造り上げてゆくのに必要な「チームワークに必要な能力」には自分の考えを正しく発言し他人の考えを正しく聞き取る能力が前提となります。学生に対しては、理論も含めて基礎学力を身につけることを求めるとのこと。新卒には即戦力であることは期待しておらず、基礎学力をしっかりと身につけておいて欲しい。そうすれば応用力もアウトプットも自然とついてくると。また、最低ひとは外国語をマスターすること。チームワークを大切にすることそのものがリーダーシップを発揮することである、との指摘も新鮮でした。

最近の学生に対しては、アピールは上手だけど、勉強していないと思われることが多々あるとのこと。部活やアルバイトの経験を

話す者も多いらしいが、企業サイドとしては本分である勉学に精を出して基礎学力を身につけて欲しいということであった。「履歴書の書き方や面接対応を練習するのではなく、その中身の充実に努めてください」と。海事科学部と海事科学研究科で展開する教育もこのラインに沿ったものにしてゆきます。

海神会と広報・社会交流推進委員会との協力がはじまって、3年になろうとしています。「かもめ会」との交流・協力もはじまりました。OBの皆さんの声を、現役学生に伝えることが出来るような仕掛けを、今後もつくり出したいと考えております。今後ともよろしくご教授くださいますようお願いいたします。

問1. キャンパス全体の印象はいかがでしたか?

支援者の方々の努力だと思いますが、きれいになっている。／清潔である。／陽光の明るいキャンパスで素晴らしいと思います。望むべきは中庭などに手を入れ、年中楽しめるような花壇などができれば最高だと思います。

問2. 今回の講演会を中心にした企画はいかがでしたでしょうか?

わかりやすく、良かった。／講演会は完全に学生を相手にしたもので、卒業生には完全に不一致。今後、内容をよく吟味し調査すること。／結構だったと思います。ことに、小田研究科長のお話は、少々聴き取り難いところがありましたが、夢があり、実現に向けての一段のご尽力を切に期待します。とくに「練習船」ニャリーイコール「大型災害救助船」とする考えは、すばらしいアイデアで再考の教育施設にもなるでしょう。

問3. 学部企画としてどのような内容を希望されますか?

ご提案でも結構です。
学生と交流する機会が欲しい。／起業家や海外を含め、独特の人生を送っている卒業生の紹介。／時間的な制約があつてむづかしいでしょうが、先生がたの研究発表・釘もあつてよいのでは、と思います。

問4. 学生・院生に向けてメッセージをお願いいたします。

人が止めている事をやる人間、若いときは全ての事に挑戦せよ。／若いときに何か、こだわりを持って打ち込むことができれば幸いです。頑張ってください。

問5. 学部および教員に望まれることがありましたらご意見をお願い致します。

世の中、またまた急激に変化しているように感じます。今度は企業ではなく、大学がリーダーシップをとって、精神的にも豊かな社会を築くべきだと思います。学部として学術研究・学生の教育ばかりでなく、大変なことでしょうが、大学のもつ人材、諸施設を開放して人々を集め、温かく知性溢れる地域社会の拠点となりましょう。大学職員の傍ら、地域の人々、学生端たち、はじめは数名からでもしっかりと続けて行けば、次第に大きな輪になり、落ち着いた国づくりに貢献することにもなると思います。このキャンパス・施設を使って、何をどんな風にやって行くかは、別の機会に愚論を述べさせて戴きますが、皆さんにも考えて戴きたく存じます。

問6. その他、ご意見、ご感想、ご希望などをお書き下さい。

“かもめ会”のご支援、感謝しています。非力で十分なことはできませんが、三浦会長を先頭に少しでも前進したい、と思っています。



関西支部だより

第29回海神会白鷗杯争奪ゴルフコンペ

恒例の第29回目の白鷗杯争奪ゴルフ大会が10月27日(木)垂水ゴルフ倶楽部会場で、秋晴れの下、関係者のご尽力により、1期生から20期生までの方々 43名の多数の参加者がプレイを楽しみました。

当日山田関西支部長の挨拶、引続いて垂水ゴルフ場特別ルールの説明のあと、写真撮影し同期生の組或は学年違いの組等と和気あいあいとOUT・INに分かれてプレイ開始致しました。

日頃鍛えし腕前を発揮された後は、倶楽部ハウスにて表彰式と懇親会を執り行われました。

成績はダブルペリアル方式で、上位順位は次の通りでした。(敬称略)

栄えある優勝は近藤三千夫(13N) グロス89、ネット66.8
準優勝は堀田時彦(10N) グロス81、ネット69.3

3位は森口俊樹(16N) グロス91、ネット71.2と成りました。
その他飛賞、当日賞(27位) ブービ賞、ニャーピン賞、ドラコン賞、ベスグロ賞等開催担当者の配慮により、参加された方には参加賞が配られ存分に楽しんだ一日でした。

今まで、毎回各方面から支援していただき、紹介と御礼を申し上げます。

ロマン会様からは多額の寄付、余田様(6N)から有馬大黒屋佃煮、三浦様(1E)からMMCカレーを安く提供して

頂いております。有難う御座いました。

残念ながら、今回は優勝レプリカ提供者の松原様(1N)が不参加に付き取り止めとなりました。次回は是非とも参加して頂きプレゼンターになって貰いましょう。

来年はやはり10月中旬頃に垂水ゴルフ倶楽部で第30回の記念大会を執り行いたいと考えております。そして参加者が今回以上にになりますよう同窓生の皆様でプレイされる方は、奮って参加をお願いします。



第29回

海神会白鷗杯争奪ゴルフコンペ

2011. 10. 27



「西田修身先生を偲ぶ会」報告

平成23年11月21日(日)、神戸大学大学院海事科学研究科総合学術交流棟1階「梅木Yホール」にて、「西田修身先生を偲ぶ会」が執り行われました。

神戸商船大学機関科13期生の西田修身先生は、卒業後日本郵船(株)に三等機関士として入社されました。その後、母校機関科の「燃料燃焼及び潤滑論」を担当する講座に助手として着任され、学生指導や研究活動に熱心に取り組まれました。平成15年10月の神戸大学との統合時に初代海事科学部長となられ、海事科学部の管理運営に尽力されました。その後、神戸大学理事(副学長)として神戸大学の管理運営の一翼も担われました。平成22年11月9日66歳で永眠されました。

「偲ぶ会」では、奥様とご子息様を迎え、参加者91名各位の白菊の献花にはじまり、ご略歴の紹介、代表者2名の偲ぶ言葉、ご家族からのお言葉を拝聴しました。



「偲ぶ会」



海洋ロジスティクス科学科教授 三村 治夫

井上篤次郎元神戸商船大学長の「偲ぶ言葉」は、深江での30有余年にわたる西田先生とご自身の親交に触れておられ、故人のお人柄が偲ばれました。小田海事科学研究科長は、国立大学法人を経て神戸大学との統合へと至る大きな変革期に、西田先生の担われた重責並びに当該研究科の基盤づくりへの多大なる貢献について語っておられました。ご子息の耕介様は、ご家庭での西田先生の様子等を気さくに話され、閉会となりました。

懇親会は緒方一彦名誉教授の「献杯」のご発声で始まり、しばらく歓談の後、機関科1期生の柴直延氏が「偲ぶ言葉」を述べられました。その後、今も元気な元女子学生や水泳部、野球部の卒業生等から西田先生の思い出が紹介されました。杉田英昭名誉教授は、白鷗寮での寮生活に触れられ、その当時から一貫して変わらない西田先生のお人柄を紹介されました。

13期生で航海科卒業の久保雅義名誉教授が感情のこもった「なかじめ」のあいさつをされ、竹増正信名誉教授と杉浦昭典名誉教授の音頭で、寮歌「白波寄する」を皆が肩を組み、天国へ届けとばかりに全員で合唱し、解散となりました。

東京や九州方面からも参加していただき盛大な偲ぶ会となったことは、西田先生のお人柄ゆえであり、よい供養になったことと思います。



寮歌「白波寄する」を全員で合唱



1号館(旧本館)時計塔付の大時計寄贈と除幕式

1号館の時計塔の北向きと東向きの両大時計が故障で長い間動かず、学生及び学内の教職員の皆様には不自由な思いをされていたと推察します。又校門を入って一番目立つ所の大時計でありましたので特に際立っておりました。

小田研究科長と打合せ相談の結果、学生の為の厚生施設に当たるので、新替える事としました。北向きの時計一台を新替えし、東向きの時計一台は余り見やしくないので取外の上、穴を塞ぎペイント塗装する事で落ち着きました。

新装開帳は平成23年10月29日(土)ホームカミングデイ当日に合わせ、海神会評議会で報告し、懇親会にて除幕式を執り行われました。(写真)

除幕式には卒業生OBの方々にご協力していただき網を引いていただきました。

無事贈呈と除幕式は終了しました。

大時計はシンプルな型式で、ソーラーシステム方式を採用されております。又大時計の下側にはコンパスマーク入りの同窓会「海神会」名盤を取り付けております。未だ見ていない方は、本校に來られる機会がありましたら、校門から真正面に見えますので、どうかご覧になって下さい。



海神会賞を受賞して

オフショアセーリングクラブ

今回「日中韓親善レガッタ」準優勝にあたり、このような賞を頂くことができて光栄に思っております。

日中韓国際親善レガッタは2009年9月中国日照市で行われました。私たちはこのレースのために日ごろの練習以上に夏休みに合宿を組みレースに臨みました。当日は快晴に恵まれ、セーリング日和でした。レースは30ftのFlying tiger10というヨットで行われ、三カ国9チームで優勝を競いましたが、第一レースこそ慣れないヨットで戸惑いがありました。他国の社会人チーム相手に善戦し、準優勝する事ができました。優勝は中国の社会人チームでしたが、我がチームも上位チームに混じり競り合っていたので、この結果には悔しい気持ちで一杯です。今後も学生レースや社会人レースに参加して、国際レース出場の権利を勝ち得て、優勝目指し日々努力して参りたいと思います。また、レース期間中は地元大学の学生ボランティアが通訳してくれたため、学生間での国際交流がで



海技技術マネージメント課程(航海群)

川井 智広
鈴木 育実

き、貴重な経験をする事ができました。さらに学生だけでなく、社会人チームのセーラーとも交流を持ち、今までにない刺激を受けることができました。

私達のクラブ、オフショアセーリングクラブ(クルーザーヨット)の歴史は9年と浅いですが、2011年の世界学生選手権を含め、4年連続で国際大会に出場する事が出来ました。そのような成績を出す事ができた理由は、国内の他のクルーザーヨットのクラブに比べて非常に恵まれた練習環境に有ると思います。例えば大学の港にヨットがあり放課後に練習が出来ること、船に興味がある学生が多いことは商船大学の流れをくむこの学部の大きな利点です。また、私たちのクラブ活動を支援してくださるOB・OGの皆様や、先生方、海神会のおかげです。

今までたくさんのご理解・ご支援を頂き、現役部員一同感謝しております。今後もこの恵まれた環境を生かし、より一層努力いたしますので、ご支援のほどよろしく願います。今回は海神会賞を頂き、本当にありがとうございました。



神戸大学体育会水泳部

この度は大変名誉ある賞を頂きまして、誠にありがとうございます。神戸大学海事科学部の学生として、水泳部の一員として大変光栄に存じます。

私は水泳部に入部して二年目になります。今年は副将に就任し、チームの中心メンバーとして励んでまいりました。

このような受賞の機会を頂きましたことは、皆様方の深いご厚情の賜物であると存じます。また、水泳部は今年、創部90周年を迎えました。このような歴史ある部を創ってこられたOB、OGの皆様をはじめ、いつも指導してくださり、今回の賞に私を推薦してくださった本間先生など多くの方のご尽力により、今日の水泳部と自分があることをあらためて知りました。

今シーズンは、個人種目では関西学生選手権2部、関西国公立学生選手権において100m背泳ぎで2位、また、800mフリーリレーのメンバーとして日本学生選手権に出場することができました。団体としては関西国

海事科学部 海事技術マネージメント学科 機関分野 二回生

副将 平川 翔

公立学生選手権で総合2位、関西学生選手権では2部リーグで4位、全国国公立学生選手権では総合7位となり個人、団体ともに先シーズンを越える結果となりました。

来シーズンは、個人では関西学生選手権で優勝、日本学生選手権に専門種目の背泳ぎで出場という目標を、団体では関西学生選手権で1部リーグに昇格という目標を掲げ日々精進しています。

この度の受賞を受けましたことを胸にこれからも鍛錬に励み、神戸大学海事科学部の学生として、神戸大学体育会水泳部の一員として部の発展に尽くしてまいりたいと存じます。

今後とも、皆様の尚一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、お礼のご挨拶とさせていただきます。

男子端艇部(主将：バーナード 正海)

1. 新人戦連盟会費、新人戦弁当代
2. 1年生:12名 2年生:8名 3年生:6名 4年生:5名 計26名
3. 第55回全日本カッター競技大会 準優勝
(神戸大学の担当で2011年5月28日に開催 於：芦屋浜南側水面)
第57回西日本新人カッター競技大会 第三位
(海上保安大学校の担当で2011年11月3日に開催 於：呉)
4. 今秋海上保安大学校にて行われました新人戦では三位という結果に終わりましたが、これを糧として次の全国大会では優勝を目指しますので、今後ともご支援の程よろしくお願いします。



女子端艇部(主将：中山 美有紀)

1. 第57回西日本新人カッター競技大会の宿泊費
2. 1年生:3名 2年生:3名 3年生:2名 計8名
3. 第33回神戸港カッターレース 優勝
第55回全日本カッター競技大会 優勝
第57回西日本新人カッター競技大会 3位
4. この度は海神会から奨励賞を賜りありがとうございました。それからいつも温かいご支援をありがとうございます。私たちが深江の海で存分に活動できるのは卒業生の皆様の支えがあってこそと部員一同心から感謝いたしております。ありがとうございます。2011年11月開催の新人戦では、思うような結果を残すことができませんでしたが、2012年5月に予定される全日本大会では優勝トロフィーを他大学に渡さないよう全力を尽くす覚悟です。これからもご支援をよろしくお願いします。



硬式野球部(主将：森永 崇太)

1. リーグ戦費、野球用品購入等
2. 1年生:9名 2年生:2名 3年生:6名 計17名
3. 秋季リーグ戦 一勝九敗、神戸新聞社杯 対神戸国際大 2-5 ×
4. 毎年ご支援ありがとうございます。秋季リーグは一勝しかできませんでしたが、選手もそろい、練習にも一層力が入っていて、来季は勝ち星を伸ばせると思います。今後ともご支援の方をよろしくお願いします。



オフショアセーリングクラブ(主将：藤井 康次郎)

1. レース参加費、ヨット整備費
2. 1年生:13名 2年生:12名 3年生:6名 4年生:13名 計44名
3. 阿波踊りヨットレース (32/78艇)
葉山ティンバーランドレガッタ (17/23艇)
日本学生ヨット選手権 (1 / 5大学)
学生ヨット世界選手権 (15/15カ国)
4. ご支援ありがとうございます。世界選手権に行き自分達の未熟さそして、世界との差を痛感しました。今後も、世界選手権に出場できるよう練習を頑張りますので、これからも、ご支援よろしくお願いします。



伝馬船同好会(主将：衣川 一恵)

1. 大会参加の交通費等
2. 4年生5名 計5名
3. 大島2011手こぎ舟通し合ひ (福井県おおい町大島)
男子青年の部:1位(河原 宏幸)、伝馬船の部:1位(衣川 一恵)
4. 今回、海神会より支援金を頂いたことを1つのきっかけとして、数年ぶりの大会参加(個人としては初めての大会)が実現いたしました。決して大きな大会ではありませんが、1位という喜ばしい結果を得ることができ、大変素晴らしい経験を積むことができました。しかし結果より何より、主催の「大島伝統文化を継承する会」の皆さまから、伝馬船や丸木舟の歴史、皆さまの想いなどを学べたこと、地元の小中学生からお年寄りの皆さまと交友を結べたことが一番の収穫であったと感じております。伝馬船という伝統文化を通じ、大島と深江の架け橋になれたのではないかと、今でも大会を思い出し、嬉しく思う日々であります。今後も交流をもち続け、大島の皆さまと伝馬船同好会が一丸となって、この伝統文化を継承していきたいと考えております。海神会のご支援に心より感謝申し上げます。





六期生卒業50周年記念 航・機合同クラス会

期 日：平成23年10月6日～7日

開催地：和倉温泉 美湾荘

6期 内田 直行

神戸商船大学6期生は、昭和36年秋に深江の学舎を巣立ってから昨秋で50年の星霜を重ね、これを記念して航海・機関合同のクラス会を奥能登は和倉温泉の美湾荘にて開催しました。

初秋の晴天に恵まれた10月6日、7日、東北大地震の衝撃もまださめやらず、開催をためらう声も聞かれましたが、航・機双方の幹事8名による度重なる打ち合わせで、この時期、年配の我々の腰が引けてはと元気一杯に2日間を過ごすことになった次第です。

夕方16時30分に各地から馳せ参じた航・機24名づつ計48名に、ご夫人同伴1組の合計49名による記念撮影に始まり、それぞれ名湯に浸った後、18時より大西君の司会による懇親会を始めました。冒頭、物故者(航11名、機8名)のご冥福を祈って黙祷をささげた後、一同再会を喜び合い健康を祝し、かつ祈念して乾杯、美湾荘自慢の料理に舌鼓と続く中で大いに飲み語り、途中歌に興じる者、席を移して個々に旧交を温める者、学生時代の貴重な写真を披露し、そのコピーを配る者と時間がいくらあっても足りない程盛り上がりました。その勢いで二次会会場も盛況を極めようやく21時過ぎに散会となりました。なお、海神会より今回の合同クラス会に対し10万円の支援をいただいた旨、原君から紹介がありました。

前夜の興奮が冷めやらぬ翌朝、

食事を済ませた8時以降それぞれが再会を期して自由行動となりましたが、能登観光に仕立てたバスに半数以上が参加し、13時30分金沢駅にて解散し、合同クラス会は成功裏に終了しました。

航海学科	足達 忠夫	植田謙太郎	内田 直行	大谷 浩二	岡島 史郎
	大西 守	桂 武彰	川出 忠	後藤 謙	
	在間広光夫妻	島田 忠治	寺島 威夫	遠田 倫也	仲上 芳英
	中川 靖之	畠山 公之	原 潔勝	藤野 陽	前田 勝正
機関学科	前原 太志	三木 楯彦	宮森 勝	吉岡 龍行	米田 巽
	東 衛	池上 俊文	池田 秀昌	石井 毅	石塚 邦典
	上村 健二	川島 仲	佐藤 昭男	武井 俊平	田代 博
	田中 勝夫	田中 正太	豊田 済	長野 千秋	西村 辰朗
クラス会出席者	橋本 高明	橋本 武	樋口 暢夫	平田 奎生	石塚 広里
	淵田 和郎	松浦 牧	三宅 趙夫	横江 福七	



神戸商船大学26期生 卒業30周年(入学34周年) 記念同窓会

海事マネジメント科学科教授

代表幹事 内田 誠

神戸商船大学商船学部航海学科26期生(KN26)、機関学科26期生(KE26)および原子動力学科6期生(KA6)は、30余年前に乗船実習等で苦楽を共にした東京商船大学商船学部航海学科29回生(TN29)、機関学科29回生(TE29)および船用制御工学科1回生(TC1)と合同で、神戸地区開催の第2部と東京地区開催の第1部の2部構成で記念同窓会を開催しました。

【第1部】2011年10月29日(土)に、品川プリンスホテルにおいて開催し、総勢81名が集いました。山城(TN)による開会の辞に引き続き物故者9名(K4名、T5名)に黙祷を捧げた後、堀(TN)の乾杯で賑やかな宴が始まり会場のあちこちで歓談の輪ができました。途中、制服姿の乾(KN)が凛々しく登場し、「ほんとに学生時代の制服かよ?」といった訝しげな声をよそに学生時代さながらの力のこもった自己紹介で会場が大いに沸きました。仕上げは、芋



生(KN)主導の下、二大学、学科毎に好きな寮歌を斉唱し、2時間が瞬間に過ぎ関東一本締めでお開きとなりました。ほぼ全員参加の二次会カラオケの後は、赤提灯を目指して三々五々夜の街へ消えたとのことです。

【第2部】2011年11月26日(土)に、海事科学部のキャンパスツアーを実施の後、深江の「辰よし」において開催し、総勢26名が集い

ました。キャンパスツアーでは、寮生活、学生生活でもお世話になった2年先輩の矢野船長(N24)に多大な協力を得て練習船深江丸の船内を見学させていただき、加えて、海事博物館および1年半前に設置された船用機関プラントシミュレーターの見学を行いました。夕刻からは、恒例の「辰よし」において「入学34周年記念」と称して26期生が26日に26名(29回生を含む)集まり、懇親を深めました。【第1部】の幹事の1人である須藤(KA)からはコンパスマーク入りの日本手ぬぐいの差し入れがあり、ジャンケンによる争奪戦が繰り広げられました。二次会では、コンビニへと様変わりした「陸前屋」で調達した酒と肴を「養正館」に持ち寄り、海事社会に関する情報交換に熱が入りました。

【K26T29メーリングリスト】1999年秋に、神戸26期生と東京29回生の同窓生による情報交換のためのメーリングリスト(通称：ポケモンズML)が運用開始され、現在の配信登録は131名です。配信には登録が必要ですので、内田(KE26)まで一報願います。

【海神会祝儀】海神会から頂戴した30周年祝儀は、26期生(N26、E26、A6)多数の賛同を得て、全額を「神戸商船大学26期生(1977年入学)一同」名義により日本赤十字社東日本大震災義援金に募金させていただきました。



辰よし



三級水先人の斉藤志穂さんの紹介文

神戸大学大学院海事科学研究科
水先人養成教育実施責任者

林 祐司

斉藤志穂さんは、山に囲まれた山形県最上郡の出身です。2008年3月に神戸大学海事科学部を卒業し、同年9月に神戸大学乗船実習科を修了しました。

2008年10月に大阪湾水先区三級水先修業生(1期生)として神戸大学大学院海事科学研究科に入学しました。6ヶ月の科目等履修生を含め2年6月の三級水先人修業期間中に、座学、操船シミュレータ訓練、水先実務訓練、タグボート乗船訓練、学内船実習、内航船実習及び外航船実習等の必要科目を履修し、単位修得を経て、2010年9月修士の学位を取得後、2011年3月に登録水先人養成施設三級水先修了証明書を授与されました。

2011年9月三級水先人国家試験に合格し、同年11月に大阪湾水先区水先人会に入会し、現在は同会の育成プログラムに参加しており、ライセンスを持った水先現場での訓練と評価を受けています。女性水先人は斉藤志穂さん以外に、全国では東京湾水先区で2人、内海水先区で1人の計4人が同様の育成プログラムの元、独り立ちの訓練を行っています。

今後は、三級水先人並びに女性水先人のパイオニアとし

て、生来の粘り強さを発揮し、水先人会に溶け込んで水先業務に精励されることと信じています。将来は、二級水先人を経て、一級水先人となり、すべての船舶のきょう導を行うと同時に、後進の指導をしてくれるものと期待しています。



かもめ会

深江キャンパスで「かもめ会」が活躍している。チョット耳慣れ会なので、ここで説明させて頂こう。

OB(海神会会員)10名程と、OB以外数名が、ボランティア活動として曜日を定めて参加し、主に次の様な活動を行っている。

- (1) 海事博物館の展示会の企画・立案、収蔵品の整理・点検、来館者の案内
- (2) キャンパス内の通学路の清掃・除草作業

11月20日(日)深江キャンパスを運動拠点としている運動部・同好会の学生さん達およそ60名と、この「かもめ会」とが合同でキャンパスと、大学前面の通学路の一斉清掃作業を行った。

約2時間、歩道植込みに投げ込まれていたゴミを拾ったり、生垣の刈込み作業などで過ごし、気持ちいい汗を流しました。

一緒に作業をしていて、気付いたのですが、ウチの学生さん達は実に真面目である。活発で行動力もあって、礼儀正しい。何よ

りも感銘を受けた事は、相手の眼を見てキチンとモノを言う習慣を身に付けていることだった。今時この様な爽快で澁刺とした若者の集団は深江以外の日本中何処を探しても居ないだろうと、わが母校に改めて誇りを感じました。

それにしても、彼等を此処までに育て上げられた教育者の方々には、心から頭の下がる思いがする。

昔から「スマートで、目先が利いて几帳面、負けじ魂これぞ船乗り」と語り継がれて来た言葉をフツ思い出した良い晴れた日の出来事だった。

ついでながら、梅木ホール(旧コンファレンスホール)の壁に色鉛筆で鮮やかに描かれた「帆船 進徳丸」の大きな絵画が飾られているが、この絵の作者 高橋健一画伯も「かもめ会」の一員で(OB以外)、活動日には一緒になって草むしりや清掃に汗を流しておられる事を付け加えておく。



「外国航路よもやまばなし」について

神戸高等商船航海科43期生 村田惇雄様の著書につきましては、神戸大学 KOBE UNIVERSITY STYLE に転載する事になっており現在検討中です。従って今回は一旦お休みを戴きます。

